

2020年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人ハンディキャブゆづり葉
 代表者・役職名 氏名 理事長 杉本 依子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

おでかけサロン・食事会

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

1996年1月に1台の福祉車両を借り受ける事をきっかけに、移動サービス事業を立ち上げました。2000年には利用する人やケアする人も増えたことから更なる発展にむけ特定非営利活動法人ハンディキャブゆづり葉を設立しました。現在の会員数は217名です。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

当団体の移動支援を得意とする強みを生かし、今まで移動手段がなくて外出できなかった人に、福祉車両での介助付きの送迎及び食事会を開催し、美味しい手作りのお食事と語らいの場を用意し、ひとりでは外出困難な方が、いきいきと元気に生活できる福祉のまちづくりに寄与する。今回、事業の更なる充実を図るために、老朽化した厨房設備を更新する。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

食事会には、主に一人暮らしの方や、引きこもりがちな方、移動困難な方にも参加していただき、美味しい食事、楽しい語らいだけでなく、移動に関する情報の提供や相談にもなっている。2013年度から始めた本事業は、毎年参加の方が10名前後で推移するなど地域福祉推進事業の一事業として定着してきた。一方で、老朽化した厨房設備の更新が大きな課題となっている。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

老朽化した厨房設備の更新により、調理に携わるスタッフの負担の軽減や提供する食事内容をより充実することが出来ました。新型コロナウイルス感染症により約半年間開催を見送ってききましたが、10月8日から再開することが出来ました。食事会の再開を待ち望んでいた多くの方々のためにも新しくなった厨房設備を活用し、引き続きおでかけサロン・食事会を開催していきます。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

新型コロナウイルス感染症の終息はまだ見えてきませんが、地域福祉推進事業の一つである、おでかけを応援する「おでかけサロン・食事会」については開催日の増や内容の充実にスタッフ一同引き続き取り組んでまいります。

7. 参考資料

支援対象事業で作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

厨房設備改修工事

○改修前



○改修後

